

## 令和8年度 HP掲載用 必履修科目 シラバス一覧

(PDFファイルのしおりに各教科のページ名があります)

No.	必履修科目名
1	現代の国語 (1年)
2	言語文化 (1年)
3	地理総合 (1年)
4	歴史総合 (1年)
5	公共 (2年)
6	数学 I (1年)
7	科学と人間生活 (2年)
8	物理基礎 (ア…物・化選択者) (2年)
9	物理基礎 (イ…化・生選択者) (2年)
10	化学基礎 (2年理系)
11	生物基礎 (1年)
12	体育 (1年)
13	体育 (2年)
14	体育 (3年)
15	保健 (1年)
16	保健 (2年)
17	音楽 I (1年)
18	美術 I (1年)
19	書道 I (1年)
20	英語コミュニケーション I (1年)
21	家庭基礎 (1年)
22	情報 I (1年)
23	産業社会と人間 (1年)

令和8年度 年間指導計画

教科	科目	学年	単位数	必選別
国語	現代の国語	1	2	必修
教科書	精選 現代の国語(東京書籍)			
使用教材	よむナビ1(いづな書店)			
学習の目標				
①知識・技能	・実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。			
②思考・判断・表現	・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。			
③主体的に学習に取り組む態度	・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。			
評価の観点				
①知識・技能	・実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにしている。			
②思考・判断・表現	・「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。			
③主体的に学習に取り組む態度	・言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉が持つ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。			
評価の方法				
①知識・技能	・定期考査、課題テスト、小テスト、授業での質問			
②思考・判断・表現	・論述、発表、話し合い、討論、レポート			
③主体的に学習に取り組む態度	・ノート、自己評価シート、発言、授業形態に応じた学習態度			

〈授業計画〉

学期	単元	学習内容(到達度目標)
1学期	【読む】 「まだ知らない自分に出会う」  言語活動 「僕たちの『センス・オブ・ワンダー』」  中間考査	・常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使っている。 ・問いかけや反対意見に対する答え、意見と根拠(理由)を確認しながら読んで、筆者の読書に対する考えを理解している。 ・対話によって「まだ知らない自分」に出会ったエピソードを、自己の体験を振り返ってまとめ、話し合おうとしている。 ・比喩的な表現の意味を、意識して正確に捉える。 ・具体的なエピソードを通して筆者が何を言おうとしているのかを考える。
	【読む】 「水の東西」 【話す・聞く】 発想を広げて課題を見つける  【書く】 新聞記事をもとに問いを作り、意見をまとめる  期末考査	・比較を通じて、日本と西洋の水に対する捉え方の違いを読み取っている。 ・思考・発想を整理しながら広げるための方法を理解し、さまざまな観点からアイデアを出して整理している。 ・意見文の学習を通して、情報を取捨選択し、自分の生活と関連付けて問いを作り、それに対する自分の考えを持ち、身の回りの意見文の工夫にも関心を広げようとしている。
2学期	【話す・聞く】 本を紹介する  【読む】 「まちの豊かさとは何か」 【書く】 調べた情報を資料にまとめる  中間考査	・紹介する本の内容や、その本を紹介する理由が的確に伝わる構成を意識し、聞き手の反応を確かめながら話している。 ・本を紹介し合うことで、新しい本の魅力を知り、読書の幅を広げようとしている。 ・筆者の体験や具体例と考えの変化に注目しながら読んで、「まちの豊かさ」についての筆者の考えを読み取っている。 ・説明資料の学習を通して、必要な情報を収集・整理・吟味し、伝えたいことを明確にししながら説明資料を作成する方法を知ろうとしている。
	【読む】 「真の自立とは」「自立と市場」「共鳴し引き出される力」 ▼文章を読み比べるために  【書く】 異なる文章を読み比べて自分の意見を書く  期末考査	・筆者の主張と、「自立」について書かれた他の文章とを相互に関連付けながら、自分の考えを深めている。 ・同じテーマの文章を読んで、違いを整理・比較したうえで、説得力のある自分の考えを持っている。
3学期	【読む】 「人工知能はなぜ椅子に座れないのか」 【書く】 論証してレポートを書く ▼引用の方法 【話す・聞く】 探求したことを発信する  期末考査	・筆者の考える『「自らの人生を生きる」という行為』について「人工知能」と対比して読み取り、「人工知能」が椅子に座れない理由を理解している ・「問い」を立て、論証の方法を工夫し、「答え」を導き、レポートに必要な項目を理解して、形式や体裁を整えている。 ・発表において、形式に応じて資料や視聴覚機器を効果的に使うなど、聞き手に伝わりやすい発表の仕方を工夫して話している。

令和8年度 年間指導計画

教科	科目	学年	単位数	必選別
国語	言語文化	1	2	必修
教科書	言語文化(数研出版)			
使用教材	『学ぶぞ古文と漢文』『学ぶぞ古文と漢文基本練習ノート』(尚文出版)			
学習の目標				
①知識・技能	・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。			
②思考・判断・表現	・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。			
③主体的に学習に取り組む態度	・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。			
評価の観点				
①知識・技能	・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。			
②思考・判断・表現	・「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。			
③主体的に学習に取り組む態度	・言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉が持つ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。			
評価の方法				
①知識・技能	・定期考査、課題テスト、小テスト、授業での質問			
②思考・判断・表現	・論述、発表、話し合い、討論、レポート			
③主体的に学習に取り組む態度	・ノート、自己評価シート、発言、授業形態に応じた学習態度			

〈授業計画〉

学期	単元	学習内容(到達度目標)
1学期	古文編 「児のそら寝」 古典チェックポイント1・2	・古語の品詞や活用について理解し、古語辞典を引くことができる。 ・歴史的仮名遣いに注意して音読し、古文のリズムに慣れるとともに、正しく音読することができる。 ・古文に親しみを持ち、話の面白さを理解している。 ・用言の活用について理解している。
	中間考査	
	漢文編 漢文チェックポイント1 「矛盾」	・中国の古典が日本に輸入され、訓読の仕組みが生まれた歴史について、理解している。 ・漢文の特色や訓読のきまりを理解し、古典を学ぶ意味について考えを深めている。 ・漢文の内容を読み取り、故事成語の意味を理解している。
2学期	古文編 「ある人、弓射ることを習ふに」 古典チェックポイント3 言語活動 期末考査	・『徒然草』とその作者について、理解を深めている。 ・文法事項等を踏まえて本文を口語訳し、筆者の考えを理解している。 ・作者の処世観を理解し、自らの経験を振り返り、文章にまとめ、発表を通して自分の考えをさらに深めようとしている。
	近現代編 「羅生門」 言語活動	・小説の読み方の基本(登場人物や場面の把握、心情の変化への着目)を理解し、登場人物の心情の変化を読み取り、人間関係の在り方について自分の考えを持っている。 ・情景描写や比喩表現、語り手の役割などを的確に把握している。 ・翻案作品の「羅生門」と原作の「今昔物語集 羅城門の上層に登りて死人を見たる盗人のこと」を比較し、その変更点が翻案作品の創造性にとってどのような意味を持つのか自分の考えをまとめている。
	古文編 「芥川」 中間考査	・文法事項を踏まえて本文を口語訳し、和歌に詠み込まれた情景や心情を読み取っている。
	漢文編 漢詩 漢文チェックポイント5	・漢詩のきまりを理解し、それぞれの漢詩の形式と押韻を指摘している漢詩にうたわれた情景や心情を読み解っている。
3学期	古文編 「門出」「帰京」 言語活動	・文法事項を踏まえて本文を口語訳し、和歌に託された心情を読み取っている。 ・日記文学の特質を理解している。 ・作者の人柄・描き出された心情を読み取っている。
	期末考査	

令和8年度 年間指導計画

教科	科目	学年	単位数	必選別
地理歴史	地理総合	1	2	必修
教科書	高等学校 新地理総合(帝国書院)、新詳高等地図(帝国書院)			
使用教材	新詳地理資料COMPLETE2026(帝国書院)、高等学校新地理総合ノート(帝国書院)			
学習の目標	地理に関わる諸事象に関して、空間的な諸事象の規則性、傾向性や、諸地域の地域的特色や課題を理解するとともに、地図や地理情報システムを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。			
①知識・技能	地理に関わる事象の意味、特色や相互の関連を、位置や分布、人間と自然環境との相互依存関係、地域などに着目して、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想する力や、効果的に説明したり、議論したりする力を養う。			
②思考・判断・表現	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究する態度を養うとともに、多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。			
③主体的に学習に取り組む態度				
評価の観点	地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解しているとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。			
①知識・技能	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりしている。			
②思考・判断・表現	地理に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。			
③主体的に学習に取り組む態度				
評価の方法	次の観点から総合的に評価する。			
①知識・技能	・定期考査、課題テスト、小テスト、授業での質問			
②思考・判断・表現	・論述、発表、話し合い、討論、レポート			
③主体的に学習に取り組む態度	・ノート、自己評価シート、発言、授業形態に応じた学習態度			

〈授業計画〉

学期	単元	学習内容(到達度目標)
1学期	第1部 地図でとらえる現代世界 第1章 地図と地理情報システム 中間考査	・日常生活の中でみられるさまざまな地図の読図などを基に、地図や地理情報システムの役割や有用性などについて理解し、その情報を収集し、読み取り、まとめる基礎的・基本的な技能を身に付ける。 ・地図や地理情報システムについて、位置や範囲、縮尺などに着目して、目的や用途、内容、適切な活用の仕方などを多面的・多角的に考察し、表現する。
	第2章 結び付きを深める現代世界 第2部 国際理解と国際協力 第1章 生活文化の多様性と国際理解 1節 世界の地形と人々の生活 期末考査	・現代世界の地域構成を示したさまざまな地図の読図などを基に、方位や時差、日本の位置と領域、国内や国家間の結び付きなどについて理解する。 ・地球上でみられるさまざまな地形の特徴や成因について理解し、生活や人間活動とどのように関わっているか、多角的・多面的に考察することができる。
	2節 世界の気候と人々の生活 中間考査	・気温や降水のしくみと分布の特徴について理解し、気候が生活や人間活動に与える影響やどのように関わっているかについて、多角的・多面的に考察することができる。
2学期	3節 世界の言語・宗教と人々の生活 4節 歴史的背景と人々の生活 5節 世界の産業と人々の生活 期末考査	・世界の人々の特色ある生活文化を基に、人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性をもつことや、地理的環境の変化によって変容することなどについて理解する。 ・世界の人々の生活文化について、その生活文化が見られる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して、多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察し、表現する。 ・生活文化の多様性と国際理解について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。
	第2章 地球的課題と国際協力	・地球的課題の傾向性や関連性等について大観し理解するとともに、多面的・多角的に考察し、表現する。地球的課題と国際協力について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。
3学期	第3部 持続可能な地域づくりと私たち 第1章 自然環境と防災 第2章 生活圏の調査と地域の展望 期末考査	・自然災害を基に自然環境の特色と自然災害への備えの重要性について理解する。ハザードマップ等から情報を収集・読み取り・まとめる技能を身に付ける。 ・防災について自然及び社会的条件との関わり、持続可能な地域づくりに着目して主題を設定し、自然災害への備えや対応を多面的に考察し、表現する。 ・自然環境と防災について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。

令和8年度 年間指導計画

教科	科目	学年	単位数	必選別
地理歴史	歴史総合	1	2	必修
教科書	明解 歴史総合[帝国書院]			
使用教材	明解歴史総合ノート[帝国書院]、明解歴史総合図説 シンフォニア[帝国書院]			
学習の目標				
①知識・技能	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界との中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。			
②思考・判断・表現	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。			
③主体的に学習に取り組む態度	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。			
評価の観点				
①知識・技能	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界との中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解しているとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。			
②思考・判断・表現	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりしている。			
③主体的に学習に取り組む態度	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとしている。			
評価の方法				
①知識・技能	次の観点から総合的に評価する。			
②思考・判断・表現	日常の授業態度、発問に対する回答の評価、課題等の提出状況、単元点評価・考査点評価			
③主体的に学習に取り組む態度				

〈授業計画〉

学期	単元	学習内容(到達度目標)
1学期	2部 近代化と私たち 1章 江戸時代の日本と結びつく世界 2章 欧米諸国における近代化 中間考査	・18世紀の世界交易が、現代社会に与えた影響と課題について追究しようとしている。 ・市民社会と国民国家の形成、資本主義社会と国際分業体制確立の経緯について、資料を読み取り、理解している。 ・市民革命や産業革命が、現代社会に与えた影響と課題について、追究しようとしている。
	3章 近代化の進展と国民国家形成 4章 アジア諸国の動揺と日本の開国 5章 近代化が進む日本と東アジア 期末考査	・国民国家や帝国主義政策が、現代社会に与えた影響と課題について追究しようとしている。 ・欧米諸国の進出によるアジア諸国の変容について、資料を読み取り、理解している。 ・欧米諸国の進出とアジア諸国の変容が、現代社会に与えた影響と課題について追究しようとしている。 ・明治維新やアジア諸国の変容が、現代社会に与えた影響と課題について追究しようとしている。
	3部 国際秩序の変化や大衆化と私たち 1章 第一次世界大戦と日本の対応 2章 国際協調と大衆社会の広がり 中間考査	・国際関係の視点を軸に、第一次世界大戦勃発から終戦までの経緯と、参戦各国の社会の変化について、資料を読み取り、理解している。 ・勢力均衡に基づく国際秩序と大衆の戦争参加が、現代社会に与えた影響と課題について追究しようとしている。 ・ヴェルサイユ体制によって形成された国際秩序と、国際社会や各国に生じた政治・社会・文化の変化について、資料を読み取り、理解している。 ・ヴェルサイユ体制に基づく国際秩序の成立と、20世紀前半における大衆社会の到来が、現代社会に与えた影響と課題について追究しようとしている。
2学期	3章 日本の行方と第二次世界大戦 4章 再出発する世界と日本 期末考査	・世界恐慌から第二次世界大戦の終戦に至るまでの経緯について、大衆とメディアの関わりに着目しながら、資料を読み取り、理解している。 ・世界恐慌後の各国の政治的判断と、大衆の戦争協力が、現代社会に与えた影響と課題について追究しようとしている。 ・冷戦構造の形成と、国連を中心とする平和へ向けた新たな国際秩序について、日本と関連付けながら資料を読み取り、理解している。
	4部 グローバル化と私たち 1章 冷戦で揺れる世界と日本 2章 多極化する世界 3章 グローバル化のなかの世界と日本 期末考査	・冷戦下の緊張と緩和の経緯と、そのなかでの日本の高度経済成長や、脱植民地化を目指す動きについて、資料を読み取り、理解している。 ・冷戦下における各国の政治的・経済的選択が、現代社会に与えた影響と課題について追究しようとしている。 ・冷戦の終結とグローバル化の進展が、現代社会に与えた影響と課題について追究しようとしている。
3学期		

令和8年度 年間指導計画

教科	科目	学年	単位数	必選別
公民	公共	2	2	必修
教科書	改訂版公共(数研出版)			
使用教材	公共整理ノート(数研出版)、最新図説公共(浜島書店)			
学習の目標	<p>①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度</p> <p>公共の学習を通じて、現代社会の諸課題についての基礎的・基本的な知識や技能を身につける(①)とともに、課題の解決のために主体的に考え、判断する能力を育む(②)ことを目指す。現代社会の諸課題に対する見方や考え方はさまざまあり、多面的であることを重視し、その複数性のなかで生徒が自分で考え、対話を通じて、合意形成を目指す公共的存在としての能力を養う(②)。</p> <p>これを達成するために、さまざまな現代社会の諸問題を身近な話題について考えるテーマ学習や主体的で対話的な授業を通して、生徒が社会を構成する参画者の一人であることの自覚を深める(③)ことを目標とする。</p>			
評価の観点	<p>①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度</p> <p>①自分自身が公共的空間の主体となり、自分のキャリア形成とともによりよい社会の形成に結びつくことについて理解できる。 ①法、政治、経済などに関わるシステムの下で活動するために必要な知識・技能を身につけることができる。 ②地域社会などのさまざまな集団の一員として生き、他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的空間を作る存在であることについて多面的・多角的に考察し、表現できる。 ②法、政治、経済を関連させ、自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、その主題解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを論拠をもって表現できる。 ③よりよい社会の実現を視野に現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、公共的空間に生きる人間としてのあり方生き方について自覚を深めることができる。</p>			
評価の方法	<p>①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度</p> <p>次の観点から総合的に評価する。 日常の授業態度、発問に対する回答の評価、課題等の提出状況、評価問題・定期考査</p>			

〈授業計画〉

学期	単元	学習内容(到達度目標)
1学期	<p>第1章 公共的な空間をつくる私たち</p> <p>第1節 青年期と自己形成</p> <p>1 青年期の意義と課題</p> <p>2 自我の確立と自己形成</p> <p>第2節 人間としての自覚</p> <p>1 生きること考えること</p> <p>2 世界の宗教</p> <p>第3節 日本人としての自覚</p> <p>1 日本の思想(仏教・儒教・国学)</p> <p>2 日本の文化と西洋思想の受容</p> <p>第2章 公共的な空間における人間としてのあり方生き方</p> <p>第1節 西洋近現代の思想</p> <p>1 近代科学の考え方</p> <p>2 人間の尊厳と幸福</p> <p>3 現代の思想</p> <p>4 個人と社会のかかわり</p> <p>第2節 現代の諸課題と倫理</p> <p>1 地球環境をめぐる問題</p> <p>2 資源・エネルギーをめぐる問題</p> <p>3 生命をめぐる問題</p> <p>4 情報をめぐる問題</p> <p>第3章 公共的な空間における基本原理</p> <p>第1節 民主社会の基本原理</p> <p>1 民主政治の始まりと基本的人権の保障</p> <p>2 権力分立と法の支配</p> <p>3 世界の主な政治体制</p> <p>第2節 日本社会の基本原理</p> <p>1 日本国憲法と基本原理</p> <p>2 日本国憲法の平和主義</p> <p>3 日本の安全保障と日米安保体制</p> <p>4 基本的人権の尊重と法の下の平等</p> <p>5 自由権</p> <p>6 社会権と参政権・請求権</p> <p>7 新しい人権と人権の国際的な広がり</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己形成の課題について考察できている。</li> <li>先哲の思想や宗教が自分自身の生き方に与えている影響に気付くことができている。</li> <li>生活文化や伝統が自分自身の生き方に与えている影響について気付くことができている。</li> <li>近世・近代・現代の世界の思想家の思想内容が理解できている。</li> <li>地球環境問題、資源・エネルギー問題、生命科学や情報技術の進展などの事象について理解できている。</li> <li>民主政治における国家と個人の在り方が考察できている。</li> <li>日本国憲法で保障されている権利がどのような具体的事件に適用されているのかを調べ、その保障と他者の権利や公共の利益との調和について考察できている。</li> <li>国際情勢の変化にともない、日本の平和主義の在り方がどう変化していったのか考察できている。</li> <li>法などの社会規範の役割が理解でき、日常生活と関連づけて考察できている。</li> <li>民主政治のあゆみが理解できている。</li> <li>日本国憲法の三大原理や第9条の内容が理解できている。</li> <li>国際社会の中で平和主義を掲げる日本の役割が理解できている。</li> <li>日本国憲法で保障されている権利が理解できている。</li> </ul>
2学期	<p>第4章 現代の民主政治と政治参加の意義</p> <p>第1節 日本の政治機構</p> <p>1 国会のしくみと役割</p> <p>2 内閣のしくみと行政機構</p> <p>3 日本の裁判制度と違憲審査の意義</p> <p>4 司法参加と刑事司法制度のしくみ</p> <p>第2節 政治参加と民主政治の課題</p> <p>1 選挙と選挙制度</p> <p>2 政党の役割</p> <p>3 地方自治の現状と課題</p> <p>4 世論の形成と近代民主政治の課題</p> <p>第5章 現代の経済社会と経済活動のあり方</p> <p>第1節 経済のしくみと市場機構</p> <p>1 経済生活のしくみ</p> <p>2 企業の働きと役割</p> <p>3 市場経済のしくみと物価</p> <p>第2節 財政と金融</p> <p>1 国民所得と経済成長</p> <p>2 財政の役割</p> <p>3 金融の役割</p> <p>4 日本の銀行と金融政策</p> <p>第3節 日本経済の発展と変化</p> <p>1 戦後日本経済のあゆみ</p> <p>2 1980年代以降の日本経済</p> <p>3 中小企業と農業</p> <p>第4節 豊かな生活と福祉の実現</p> <p>1 消費者をめぐる問題</p> <p>2 公害対策と環境保全</p> <p>3 労働者の権利</p> <p>4 現代の労働問題</p> <p>5 日本の社会保障制度</p> <p>6 少子高齢化と人口減少</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本国憲法に見られる三権相互の関係とそれぞれの役割が理解できている。</li> <li>行政機能が拡大している現状を理解できている。</li> <li>選挙のしくみが理解できている。</li> <li>政党の役割を理解できている。</li> <li>地方自治の現状と課題が理解できている。</li> <li>情報リテラシーについて理解できている。</li> <li>行政機能拡大の是非について主体的に考察できている。</li> <li>選挙制度によって政党政治の形態が変化することに気付くことができている。</li> <li>各党の綱領を調べ、その政策を知ることができている。</li> <li>日本の政治について課題を発見し、解決する見通しが持っている。</li> <li>住民投票など身近な地域で行われている例を調べ、報告できている。</li> <li>世論調査の結果の分析を行い表現できている。</li> <li>現代の企業の果たしている役割が理解できている。</li> <li>市場経済のメカニズムが理解できている。</li> <li>各種経済指標を理解し、その指標の動向を読み解くことができている。</li> <li>政府が経済に果たしている役割を理解できている。</li> <li>金融・財政のしくみを理解し、経済状況に応じて実施される適切な手段を提示できている。</li> <li>戦後日本経済のあゆみが理解できている。</li> <li>産業構造の変化と職業選択との関係や、中小企業や農業の果たしている役割と現状を理解できている。</li> <li>私法の特徴や契約の原則とその修正について理解できている。</li> <li>雇用・労働問題や社会保障について理解できている。</li> <li>公害がなぜ発生したのかを考察できている。</li> <li>雇用・労働問題や社会保障・福祉について課題を発見し、解決の方法を考察できている。</li> </ul>
3学期	<p>第6章 国際社会の動向と日本の役割</p> <p>第1節 国際政治の動向</p> <p>1 国際社会と国際法</p> <p>2 国際連合の成立と組織</p> <p>3 国際連合の役割と課題</p> <p>4 戦後の国際情勢</p> <p>第2節 国際政治の課題と日本の役割</p> <p>1 軍縮への動き</p> <p>2 現代の紛争</p> <p>3 世界の人権問題と日本</p> <p>第3節 国際経済の動向と国際協力</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国際法の意義や国際紛争を解決する機関の役割が理解できている。</li> <li>国際連盟・国際連合の組織と役割が理解できている。</li> <li>冷戦の成立とその終結後の国際政治の流れが理解できている。</li> <li>核軍拡から核軍縮への流れが理解できている。</li> <li>現代の世界の紛争や人権問題について理解できている。</li> <li>貿易や外国為替相場について、そのしくみが理解できている。</li> <li>戦後の国際経済の流れが理解できている。</li> <li>地域経済統合が進んでいる世界の現状が理解できている。</li> </ul>

令和8年度 年間指導計画

教科	科目	学年	単位数	必選別
数学	数学 I	1	3	必修
教科書	高等学校 数学 I (数研出版)			
使用教材	新課程 クリアー数学 I + A (数研出版)			
学習の目標				
①知識・技能	・数と式、2次関数、図形と計量及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を理解するとともに、事象を数学的に解釈したり表現・処理したりする技能を身に付ける。			
②思考・判断・表現	・命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力や、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。			
③主体的に学習に取り組む態度	・数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。			
評価の観点				
①知識・技能	・基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにしている。			
②思考・判断・表現	・命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力や、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養おうとしている。			
③主体的に学習に取り組む態度	・数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養おうとしている。			
評価の方法				
①知識・技能	・定期考査、課題テスト、授業での質問			
②思考・判断・表現	・定期考査、課題テスト、発表、話し合い、レポート			
③主体的に学習に取り組む態度	・授業形態に応じた学習態度、レポート			

〈授業計画〉

学期	単元	学習内容(到達度目標)
1学期	第1章 数と式 第1節 式の計算	・整式の加法・減法・乗法の計算ができる。 ・因数分解ができる。
	第2節 実数	・数を拡張した範囲のなかで、四則演算ができる。 ・根号を含む加法・減法・乗法の計算ができる。 ・分母の有理化ができる。
	中間考査	
	第3節 1次不等式	・不等式の性質を理解し、1次不等式や連立1次不等式が解ける。
	第2章 集合と命題	・命題や条件について、集合との関係を調べ、真偽を明らかにすることができる。
2学期	期末考査	
	第3章 2次関数 第1節 2次関数とグラフ	・放物線の形や軸、頂点について理解し、平方完成を利用して2次関数のグラフをかくことができる。
	第2節 2次関数の値の変化	・2次関数のグラフを通して、関数の値の変化を考察し、関数の最大値・最小値を求めることができる。
	第3節 2次方程式と2次不等式	・因数分解や解の公式を使って、2次方程式が解ける。 ・2次関数のグラフとx軸との位置関係から、2次不等式の解を求めることができる。
	中間考査	
3学期	第4章 図形と計量 第1節 三角比	・直角三角形において、正弦・余弦・正接を求めることができる。 ・三角比の相互関係を理解する。 ・角を鈍角にまで拡張した三角比の値が計算できる。
	第2節 三角形への応用	・正弦定理や余弦定理を用いて、三角形の残りの辺の長さや角の大きさを求めることができる。 ・三角形の面積公式を理解し、活用できる。
	期末考査	
3学期	第5章 データの分析	・統計の基本的な考え方を理解し、それらを用いてデータの整理・分析をし傾向を把握できる。
	期末考査	

令和8年度 年間指導計画

教科	科目	学年	単位数	必選別
理科	科学と人間生活	2	2	選択必修
教科書	改訂 科学と人間生活 [第一学習社]			
使用教材	改訂 ネオバルノート科学と人間生活 [第一学習社]			
学習の目標				
①知識・技能	自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活との関わりについての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。			
②思考・判断・表現	観察、実験などを行い、人間生活と関連付けて科学的に探究する力を養う。			
③主体的に学習に取り組む態度	自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。			
評価の観点				
①知識・技能	自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活との関わりについての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。			
②思考・判断・表現	自然の事物・現象を人間生活と関連付けて、問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。			
③主体的に学習に取り組む態度	自然の事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。			
評価の方法				
①知識・技能	・定期考査、課題テスト、小テスト、授業での質問			
②思考・判断・表現	・論述、発表、話し合い、討論、レポート			
③主体的に学習に取り組む態度	・ノート、自己評価シート、発言、授業形態に応じた学習態度			

〈授業計画〉

学期	単元	学習内容(到達度目標)
1学期	序章 科学技術の発展 第1章 物質の科学 第2節 衣料と食品 ①身近な繊維 ②繊維の構造と染色 ③天然繊維 ④化学繊維 ⑤食品中のおもな栄養素 中間考査	・科学技術の進歩・発展について情報技術の発展を例に理解できる。  ・衣服などに用いられる繊維の分類や性質などを理解できる。 ・繊維の染まりやすさが繊維の構造に関係していることを理解できる。 ・天然繊維の構造や性質、用途などを理解できる。 ・化学繊維の種類や性質、用途などを理解できる。 ・生命活動に必要な栄養素を食品から得ていることを理解できる。
	⑥炭水化物 ⑦タンパク質 ⑧脂質とその他の栄養素 第2節 微生物とその利用 ①身近な微生物 ②微生物の発見 ③生態系内の微生物(1) ④生態系内の微生物(2) 期末考査	・炭水化物の分類と構造、性質、はたらきを理解できる。 ・タンパク質の構造や性質、はたらき、検出反応などを理解できる。 ・脂質の構造とはたらき、その他の栄養素の種類やはたらきが理解できる。  ・微生物と人間生活とのかかわりについて論理的に思考できる。 ・微生物の発見について、科学的、論理的に理解している。 ・生態系内の微生物に関心をもち論理的に判断できる。 ・植物体内に進入して生活する微生物についての的確に表現できる。
2学期	⑤微生物の利用 ⑥食品と微生物(1) ⑦食品と微生物(2) ⑧医薬品と微生物 ⑨微生物の利用の広がり 中間考査	・発酵食品の製造に利用される微生物を学習し、理解している。 ・身近にみられる発酵食品と微生物とのかかわりについての的確に表現できる。 ・微生物によってつくられた医薬品がどのように貢献してきたか理解している。 ・メタン菌などのエネルギー資源の生産や環境浄化における微生物の利用について理解している。
	第1節 熱の性質とその利用 ①温度と熱運動 ②熱容量と比熱 ③熱の伝わり方 ④仕事や電流と熱の発生 ⑤エネルギーの移り変わり ⑥熱の仕事への変換 ⑦エネルギー資源の有効活用 期末考査	・物体の温度と構成粒子の熱運動との関係を理解できる。 ・物体のあたたまりやすさ、あたたまりにくさを量的に捉え理解できる。 ・高温の物体から低温の物体への熱の伝わり方を理解できる。 ・仕事とエネルギーの関係を理解できる。 ・さまざまな形態のエネルギーが互いに移り変わることを理解できる。 ・熱を仕事に変えるしくみについて理解できる。 ・省エネルギーの取り組みを知り、新しいエネルギー資源の開発を理解できる。
3学期	第1節 自然景観と自然災害 ①日本列島のなりたち ②火山活動と地表の変化 ③火山災害と防災 ④地震災害と地表の変化 ⑤地震災害と防災 ⑥水のはたらきと地表の変化 ⑦気象災害と防災 第5章 これからの科学と人間生活 期末考査	・日本列島の特徴とその成因、日本列島付近のプレートの動きについて科学的に理解できる。 ・火山の噴出物、噴火の原因、火山の形とマグマの関連性、火山活動について、理解できる。 ・火山の災害と防災、火山の噴火の被害や二次災害、火山噴火の予知と防災について、理解できる。 ・地震の発生のしくみや、日本列島の地震活動とプレートとの関連性について理解できる。 ・地震が直接及ぼす被害や地震による二次災害、地震の予知と防災について、理解できる。 ・河川のはたらきや海水のはたらきによって形成された地形について、理解できる。 ・気象災害と防災について関心をもち、豪雪、台風、集中豪雨、土砂災害など、理解できる。 ・学習した科学技術を踏まえて、科学と人間生活とのかかわり方について考察できる。

令和8年度 年間指導計画

教科	科目	学年	単位数	必選別
理科	物理基礎ア	2	2	選択必修
教科書	新編物理基礎 [数研出版]			
使用教材	三訂版 リードLightノート物理基礎 [数研出版]			
学習の目標				
①知識・技能	物理学の基本的な概念や法則を理解し、それらを活用して日常生活や社会における自然現象を論理的に説明したり、諸課題を解決したりするための技能を身に付ける。			
②思考・判断・表現	物理現象の規則性や法則を観察、実験などを通して見出し、それらを日常生活と関連づけて科学的に考察する力を養う。			
③主体的に学習に取り組む態度	物理現象への関心を高め、日常生活や社会との関わりの中で主体的に課題を見出し、粘り強く観察や実験、考察を行うとともに、自らの学習過程を振り返り、理解を深める。			
評価の観点				
①知識・技能	物理学の基本的な概念や法則を理解している。 日常生活や社会における自然現象を論理的に説明するための技能を身に付けている。			
②思考・判断・表現	物理現象の規則性や法則を観察、実験などを通して見出すことができる。 物理法則を日常生活と関連づけて科学的に考察できる。			
③主体的に学習に取り組む態度	物理現象への関心をもち、粘り強く観察や実験、考察を行うことができる。 自らの学習過程を振り返り、理解を深めることができる。			
評価の方法				
①知識・技能	次の観点から総合的に評価する。			
②思考・判断・表現	日常の授業態度、発表やワークシート等の内容			
③主体的に学習に取り組む態度	単元点評価、考查点評価			

〈授業計画〉

学期	単元	学習内容(到達度目標)
1学期	第1編 運動とエネルギー 第1章 運動の表し方 1. 速度 2. 加速度 3. 落体の運動 中間考査	<ul style="list-style-type: none"> <li>平均の速さと瞬間の速さをグラフから読み取ることができる。</li> <li>加速度運動における加速度の大きさと向きを求められることができる。</li> <li>落下運動の実験から、重力加速度について理解する。</li> <li>水平投射について、水平方向と鉛直方向の運動について考察できる。</li> </ul>
	第2章 運動の法則 1. 力とのはたらき 2. 力のつり合い 3. 運動の法則 4. 摩擦を受ける運動 5. 液体や気体から受ける力	<ul style="list-style-type: none"> <li>力の性質を理解し、ベクトルを使って表現できる。</li> <li>力がつり合う条件を力のベクトルを使って説明できる。</li> <li>加速度は、力に比例し、質量に反比例することを理解する。</li> <li>摩擦力や空気抵抗について理解する。</li> <li>浮力や大気圧を理解し、身近な現象について説明できる。</li> </ul>
	第3章 仕事と力学的エネルギー 1. 仕事 2. 運動エネルギー 3. 位置エネルギー 4. 力学的エネルギーの保存	<ul style="list-style-type: none"> <li>仕事の定義について理解する。</li> <li>運動エネルギーを理解し、求めることができる。</li> <li>位置エネルギーを理解し、求めることができる。</li> <li>外部から仕事をされない限り、力学的エネルギーが保存されることを理解し、運動している物体の速度を求めることができる。</li> </ul>
	第2編 熱 第1章 熱とエネルギー 1. 熱と物質の状態 2. 熱と仕事 期末考査	<ul style="list-style-type: none"> <li>熱量の保存について理解し、熱量保存の式を立てることができる。</li> <li>日常的な現象を熱と仕事の関係を踏まえて説明できる。</li> <li>熱力学第一法則について理解し、熱機関について考察できる。</li> </ul>
2学期	第3編 波 第1章 波の性質 1. 波と媒質の運動 2. 重ねあわせの原理 第2章 音 1. 音の性質 2. 発音体の振動と共鳴・共鳴	<ul style="list-style-type: none"> <li>波の発生原理や基本事項を理解する。</li> <li>波の周期・振動数・速さから、波の基本式を導き出すことができる。</li> <li>波の独立性と重ねあわせの原理を理解する。</li> <li>音は空気の振動による縦波の現象であると理解する。</li> <li>定常波と速度の関係を理解し、弦楽器の原理について考察できる。</li> <li>閉管と開管での定常波の波形を理解し、管楽器の原理について考察できる。</li> </ul>
	第4編 電気 第1章 物質と電気抵抗 1. 電流の性質 2. 電流と電気抵抗 3. 電気とエネルギー 第2章 磁場と交流 1. 電流と磁場 2. 交流と電磁波	<ul style="list-style-type: none"> <li>電子の量と電流の大きさの関係について理解する。</li> <li>オームの法則を利用して回路に流れる電流を求めることができる。</li> <li>導体、不導体、半導体を抵抗率と合わせて理解する。</li> <li>抵抗を直列・並列に接続した場合の合成抵抗を求めることができる。</li> <li>交流の実行値と最大値の違いを理解する。</li> <li>変電所や変圧器のはたらきについて理解する。</li> <li>さまざまな波長と周波数の電波の利用方法について理解する。</li> </ul>
	第5編 物理学と社会 第1章 エネルギーの利用 1. エネルギーの移り変わり 2. エネルギー資源と発電 物理学が拓く世界 スポーツと物理学 防災と物理学 自動車と物理学 中間考査	<ul style="list-style-type: none"> <li>エネルギーにはどのような種類があるか理解する。</li> <li>エネルギーの変換について考察できる。</li> <li>利用されているエネルギー資源の長所と短所を理解する。</li> <li>学習内容がスポーツ、防災、自動車とどのように関連しているか理解する。</li> <li>くらしを支える技術に学んだ知識がどのように活用されているか説明できる。</li> </ul>
	3学期	

※ 物理基礎と物理の履修順序の関係から物理基礎を前半期に集中して実施

令和8年度 年間指導計画

教科	科目	学年	単位数	必選別
理科	物理基礎イ	2	2	選択必修
教科書	新編物理基礎 [数研出版]			
使用教材	改訂版 新編物理基礎準拠サポートノート[数研出版]			
学習の目標				
①知識・技能	物理学の基本的な概念や法則を理解し、それらを活用して日常生活や社会における自然現象を論理的に説明したり、諸課題を解決したりするための技能を身に付ける。			
②思考・判断・表現	物理現象の規則性や法則を観察、実験などを通して見出し、それらを日常生活と関連づけて科学的に考察する力を養う。			
③主体的に学習に取り組む態度	物理現象への関心を高め、日常生活や社会との関わりの中で主体的に課題を見出し、粘り強く観察や実験、考察を行うとともに、自らの学習過程を振り返り、理解を深める。			
評価の観点				
①知識・技能	物理学の基本的な概念や法則を理解している。 日常生活や社会における自然現象を論理的に説明するための技能を身に付けている。			
②思考・判断・表現	物理現象の規則性や法則を観察、実験などを通して見出すことができる。 物理法則を日常生活と関連づけて科学的に考察できる。			
③主体的に学習に取り組む態度	物理現象への関心をもち、粘り強く観察や実験、考察を行うことができる。 自らの学習過程を振り返り、理解を深めることができる。			
評価の方法				
①知識・技能	次の観点から総合的に評価する。			
②思考・判断・表現	日常の授業態度、発表やワークシート等の内容			
③主体的に学習に取り組む態度	単元点評価、考查点評価			

〈授業計画〉

学期	単元	学習内容(到達度目標)
1学期	第1編 運動とエネルギー 第1章 運動の表し方 1. 速度 2. 加速度 3. 落体の運動 中間考査	<ul style="list-style-type: none"> <li>平均の速さと瞬間の速さをグラフから読み取ることができる。</li> <li>加速度運動における加速度の大きさと向きを求められることができる。</li> <li>落下運動の実験から、重力加速度について理解する。</li> <li>水平投射について、水平方向と鉛直方向の運動について考察できる。</li> </ul>
	第2章 運動の法則 1. 力とそのはたらき 2. 力のつり合い 3. 運動の法則 4. 摩擦を受ける運動 5. 液体や気体から受ける力 期末考査	<ul style="list-style-type: none"> <li>力の性質を理解し、ベクトルを使って表現できる。</li> <li>力がつりあう条件を力のベクトルを使って説明できる。</li> <li>加速度は、力に比例し、質量に反比例することを理解する。</li> <li>摩擦力や空気抵抗について理解する。</li> <li>浮力や大気圧を理解し、身近な現象について説明できる。</li> </ul>
2学期	第3章 仕事と力学的エネルギー 1. 仕事 2. 運動エネルギー 3. 位置エネルギー 4. 力学的エネルギーの保存 第2編 熱 第1章 熱とエネルギー 1. 熱と物質の状態 2. 熱と仕事 中間考査	<ul style="list-style-type: none"> <li>仕事の定義について理解する。</li> <li>運動エネルギーを理解し、求めることができる。</li> <li>位置エネルギーを理解し、求めることができる。</li> <li>外部から仕事をされない限り、力学的エネルギーが保存されることを理解し、運動している物体の速度を求めることができる。</li> <li>熱量の保存について理解し、熱量保存の式を立てることができる。</li> <li>日常的な現象を熱と仕事の関係を踏まえて説明できる。</li> <li>熱力学第一法則について理解し、熱機関について考察できる。</li> </ul>
	第3編 波 第1章 波の性質 1. 波と媒質の運動 2. 重ねあわせの原理 第2章 音 1. 音の性質 2. 発音体の振動と共振・共鳴 期末考査	<ul style="list-style-type: none"> <li>波の発生原理や基本事項を理解する。</li> <li>波の周期・振動数・速さから、波の基本式を導き出すことができる。</li> <li>波の独立性と重ねあわせの原理を理解する。</li> <li>音は空気の振動による縦波の現象であると理解する。</li> <li>定常波と速度の関係を理解し、弦楽器の原理について考察できる。</li> <li>閉管と開管での定常波の波形を理解し、管楽器の原理について考察できる。</li> </ul>
3学期	第4編 電気 第1章 物質と電気抵抗 1. 電流の性質 2. 電流と電気抵抗 3. 電気とエネルギー 第2章 磁場と交流 1. 電流と磁場 2. 交流と電磁波 第5編 物理学と社会 第1章 エネルギーの利用 1. エネルギーの移り変わり 2. エネルギー資源と発電 物理学が拓く世界 スポーツと物理学 防災と物理学 自動車と物理学 学年末考査	<ul style="list-style-type: none"> <li>電子の量と電流の大きさの関係について理解する。</li> <li>オームの法則を利用して回路に流れる電流を求めることができる。</li> <li>導体、不導体、半導体を抵抗率と合わせて理解する。</li> <li>抵抗を直列・並列に接続した場合の合成抵抗を求めることができる。</li> <li>交流の実行値と最大値の違いを理解する。</li> <li>変電所や変圧器のはたらきについて理解する。</li> <li>さまざまな波長と周波数の電波の利用方法について理解する。</li> <li>エネルギーにはどのような種類があるか理解する。</li> <li>エネルギーの変換について考察できる。</li> <li>利用されているエネルギー資源の長所と短所を理解する。</li> <li>学習内容がスポーツ、防災、自動車とどのように関連しているか理解する。</li> <li>くらしを支える技術に学んだ知識がどのように活用されているか説明できる。</li> </ul>

令和8年度 年間指導計画

教科	科目	学年	単位数	必選別
理科	化学基礎ア+化学	2	2+2	選択必修/選択
教科書	改訂版 新編化学基礎[数研出版]/新編化学[数研出版]			
使用教材	Visual Select 化学基礎ノート[数研出版]、リードLightノート化学[数研出版]			
学習の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。[化学基礎]</li> <li>化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。[化学]</li> <li>観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。[化学基礎][化学]</li> <li>物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。[化学基礎]</li> <li>化学的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。[化学]</li> </ul>			
①知識・技能				
②思考・判断・表現				
③主体的に学習に取り組む態度				
評価の観点	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。[化学基礎]</li> <li>化学の基本的な概念や原理・法則を理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する操作や記録などの技能を身に付けている。[化学]</li> <li>物質とその変化から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。[化学基礎]</li> <li>化学的な事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。[化学]</li> <li>物質とその変化に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。[化学基礎]</li> <li>化学的な事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。[化学]</li> </ul>			
①知識・技能				
②思考・判断・表現				
③主体的に学習に取り組む態度				
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期考査、小テスト</li> <li>授業での発問や発表、プリント、レポート、ノート</li> <li>授業での学習態度、実験やグループ活動に参加する態度、提出物</li> </ul>			
①知識・技能				
②思考・判断・表現				
③主体的に学習に取り組む態度				

〈授業計画〉

学期	単元	学習内容(到達度目標)
1学期	化学基礎 序章 化学と人間生活	化学と人間生活とのかかわり、物質の探究、探究活動について ・化学が人間生活に果たしている役割や探究活動等について理解する。
	1. 物質の構成と化学結合 1-1 物質の構成 演示実験: 混合物の分離	<ul style="list-style-type: none"> <li>元素、純物質、混合物、単体、化合物について理解する。</li> <li>混合物の分離法について理解する。</li> <li>物質の三態と熱運動について理解する。</li> </ul>
	1-2 物質の構成粒子	<ul style="list-style-type: none"> <li>原子の構造を理解する。</li> <li>物質が原子、分子、イオンから構成されていることを理解する。</li> <li>元素の周期律と周期表を理解する。</li> </ul>
	中間考査	
2学期	1-3 粒子の結合	<ul style="list-style-type: none"> <li>イオン結合とイオン結晶について理解する。</li> <li>共有結合と分子について理解する。</li> <li>共有結合の結晶について理解する。</li> <li>金属結合と金属について理解する。</li> </ul>
	2. 物質の変化 2-1 物質と化学反応式 生徒実験: 化学反応における量的関係 期末考査	<ul style="list-style-type: none"> <li>原子量、分子量、式量について理解する。</li> <li>物質について理解する。</li> <li>溶液の濃度の表し方を理解する。</li> <li>化学反応式とその量的関係について理解する。</li> </ul>
	2-2 酸と塩基の反応 生徒実験: 中和滴定	<ul style="list-style-type: none"> <li>酸、塩基の水溶液の性質について理解する。</li> <li>pHについて理解する。</li> <li>中和反応と塩の性質について理解する。</li> <li>中和滴定の実験を通して中和反応の定量的な関係を理解する。</li> </ul>
	2-3 酸化還元反応 中間考査	<ul style="list-style-type: none"> <li>酸化還元反応を電子の移動の観点で理解する。</li> <li>酸化数、酸化剤、還元剤について理解する。</li> </ul>
3学期	化学 2. 物質の変化 2-2 電池と電気分解	<ul style="list-style-type: none"> <li>金属のイオン化傾向と電池について理解する。</li> <li>金属の製錬について理解する。</li> <li>電池のしくみやその量的関係について理解する。</li> <li>電気分解のしくみやその量的関係について理解する。</li> </ul>
	1. 物質の状態 1-1 固体の構造 動画: 結晶格子 期末考査	<ul style="list-style-type: none"> <li>金属結晶の種類や充填率、密度、アボガドロ定数との関係を理解する。</li> </ul>
3学期	1-2 物質の状態変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>物質の状態変化は熱の出入りによる粒子の熱運動がもとになっていることを理解する。</li> <li>気液平衡の概念をもとに蒸気圧や沸点について理解する。</li> </ul>
	1-3 気体	<ul style="list-style-type: none"> <li>ボイル・シャルルの法則や気体の状態方程式を理解する。</li> <li>混合気体の全圧と分圧の関係を理解する。</li> <li>実在気体と理想気体の違いについて理解する。</li> </ul>
	1-4 溶液	<ul style="list-style-type: none"> <li>溶解のしくみや固体・気体の溶解度について理解する。</li> <li>沸点上昇、凝固点降下、浸透圧について理解する。</li> <li>コロイド溶液の性質について理解する。</li> </ul>
	期末考査	

令和8年度 年間指導計画

教科	科目	学年	単位数	必選別
理科	生物基礎	1	2	必修
教科書	改訂版 新編 生物基礎[数研出版]			
使用教材	三訂版 リードLightノート生物基礎[数研出版]			
学習概要 (目標・ねらい)	(1)生物と遺伝子 生物や生物体内の化学変化、生命現象を支える遺伝子やタンパク質などはたらきについて観察、実験などを通して探究し、生命を維持する共通の原理を理解する。 (2)生物の体内環境の維持 生物体内で見られる仕組みを理解し、生物は個体として安定した内部環境を維持することを理解する。 (3)生物の多様性と生態系 生物と環境とのかかわりについて理解し、自然界における生物集団についての見方や考え方を身につける。			
評価の観点				
①知識・技能	生物や生命現象に関心を持ち、観察、実験などを行うとともに、科学の知識を身につける。			
②思考・判断・表現	生物や生命現象の中に問題を見だし、事象を論理的に考えたり、総合的に考察したりして、問題を解決し、事実に基づいて科学的に判断できる。			
③主体的に学習に取り組む態度	生物の多様性と共通性に関心を持ち、授業の予習や復習、課題学習に対し、主体的に取り組める。			
評価の方法	次の観点から総合的に評価する。 ・授業に対する意欲・態度 ・発問に対する回答の評価 ・観察・実験の技能・表現 ・評価問題・定期考査			

〈授業計画〉

学期	単元	学習内容(到達度目標)
1学期	第1章 生物の特徴 1節 生物の多様性と共通性	<ul style="list-style-type: none"> <li>多様性と共通性をもつことが、生物の特徴であることを理解する。</li> <li>生物の構造と機能の基本単位が細胞であること、細胞小器官の構造とはたらきを理解する。</li> <li>原核生物から真核生物への進化、多様化への進化を理解する。</li> <li>生命活動に必要なエネルギーの出入りや変換を理解する。</li> <li>ATPの構造と働きについて理解する。</li> </ul>
	2節 エネルギーと代謝	<ul style="list-style-type: none"> <li>ATPの構造と働きについて理解する。</li> </ul>
	中間考査	
	3節 呼吸と光合成	<ul style="list-style-type: none"> <li>光合成と呼吸のしくみとその意義を理解する。</li> <li>光合成と呼吸の学習を通して、生物が代謝によってエネルギーを取り出していることを理解する。</li> <li>ミトコンドリアと葉緑体の起源について理解する。</li> </ul>
2学期	第2章 遺伝子とそのはたらき 1節 遺伝情報とDNA	<ul style="list-style-type: none"> <li>遺伝子の本体がDNAであることを理解する。</li> <li>DNAの遺伝子としての働きが塩基の相補性によることを理解する。</li> </ul>
	2節 遺伝情報の複製と分配	<ul style="list-style-type: none"> <li>DNAの塩基配列に遺伝情報が存在し、遺伝情報に基づいてタンパク質が合成されることを理解する。</li> </ul>
	中間考査	
	3節 遺伝情報の発現	<ul style="list-style-type: none"> <li>転写と翻訳の概要から、生命現象において重要なタンパク質合成のしくみについて学習する。</li> <li>細胞は体細胞分裂によって体細胞を増やし、DNAを分配することを理解する。</li> <li>それぞれの細胞ですべての遺伝子が発現しているわけではないこと、核の全能性と分化について理解する。</li> </ul>
3学期	第3章 ヒトの体内環境の維持 1節 体内での情報伝達と調節	<ul style="list-style-type: none"> <li>体液によって体内環境が一定に保たれ、体液の成分と循環のしくみ、それが血液凝固によって保持されることを理解する。</li> </ul>
	2節 体内環境の維持のしくみ	<ul style="list-style-type: none"> <li>血糖濃度の調節を理解する。</li> <li>血液の循環を維持するしくみを理解する。</li> <li>自律神経系、内分泌系のしくみと、それらの対抗的なはたらきやホルモン調節におけるフィードバックを理解する。</li> <li>自律神経系と内分泌系の協調を理解する。</li> <li>生体防御を担う免疫のしくみを理解する。</li> </ul>
	3節 免疫のはたらき	
3学期	第4章 生物の多様性と生態系 1節 植生と遷移	<ul style="list-style-type: none"> <li>植生について、その構造を学習する。</li> <li>植生が時間とともに移り変わる過程とそのしくみを理解する。</li> </ul>
3学期	2節 植生の分布とバイオーム	<ul style="list-style-type: none"> <li>気候条件に応じた特定の相親をもつ生物の集団が気温と降水量によって決まることを、世界のバイオームと日本のバイオームについて理解する。</li> </ul>
3学期	3節 生態系と生物の多様性	<ul style="list-style-type: none"> <li>生態系の構造、物質の循環とエネルギーの流れの違いを理解する。</li> </ul>
3学期	4節 生態系のバランスと保全	<ul style="list-style-type: none"> <li>生態系を、自然環境保全の観点から理解する。</li> </ul>
3学期	学年末考査	

令和8年度 年間指導計画（新課程）

教科	科目	学年	単位数	必選別
保健体育	体育	1	3	必
教科書	アクティブスポーツ			
使用教材	なし			
学習の目標				
①知識・技能	・各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。			
②思考・判断・表現	・運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。			
③主体的に学習に取り組む態度	・生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。			
評価の観点				
①知識・技能	・運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにしている。			
②思考・判断・表現	・自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。また、個人及び社会生活における健康に関する課題を発見し、その解決を目指して総合的に思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えることができるようにしている。			
③主体的に学習に取り組む態度	・運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的、計画的な実践に主体的に取り組もうとしている。また、健康を大切にし、自他の健康の保持増進や回復及び健康な社会づくりについての学習に主体的に取り組もうとしている。			
評価の方法				
①知識・技能	・実技テスト、授業での質問			
②思考・判断・表現	・発表、話し合い、レポート			
③主体的に学習に取り組む態度	・発言、授業形態に応じた学習態度			

〈授業計画〉

学期	単元	学習内容(到達度目標)
1学期	集団行動 体づくり運動 ・陸上競技	・集団行動の様式を身につけ、集団の約束やきまりを守り、機敏的に確に行動できる。 ・運動を通して自分や仲間のからだや心の状態に気づき、からだの調子を整えたり、仲間と楽しく交流する ・各種の運動・スポーツ種目に関連する体力および健康に関連する体力を向上させる。 ・速く走るための技術とその練習方法を身につけることができる。
	中間考査 ・陸上競技 ・新体力テスト	・速く走るための技術とその練習方法を身につけることができる。 ・自分の運動能力・体力を知る
	体育理論 ・スポーツの始まりと変遷 ・文化としてのスポーツ	・世界でのスポーツの歴史を知るとともに、わが国から世界に普及し、発展しているスポーツがあることについて説明できる。 ・運動との比較から文化としてのスポーツの特徴を理解し、多様な関わり方によるスポーツ文化の変容について説明できる。
	期末考査	
2学期	・ソフトボール(男子) ・サッカー(男子)	・チームの課題や自己の能力に応じた技能の向上、戦術・作戦を生かした攻防の展開ができるようにする。互いに協力するとともに、勝敗に対して公正な態度がとれるようにする。また、安全に練習ができるようにするとともに、計画的な練習や競技会の企画・運営ができるようにする。
	・バレーボール(女子) ・バドミントン(女子)	・チームおよび個人の課題や自己の能力に応じた技能の向上、戦術・作戦を生かした攻防の展開ができるようにする。互いに協力するとともに、勝敗に対して公正な態度がとれるようにする。また、安全に練習ができるようにするとともに、計画的な練習や競技会の企画・運営ができるようにする。
	中間考査 ・柔道	・自己の能力に応じて技能を高め、相手の動きに対応した攻防ができるようにする。互いに協力するとともに、勝敗に対して公正な態度がとれるようにする。また、安全に練習ができるようにするとともに、計画的な練習や試合の工夫ができるようにする。
	・ダンス (柔道、ダンスから 1種目選択、男女共習)	・表したいテーマを全身の動きで自由に表現する創作ダンスの特性を理解し、自己の能力に応じた課題をもって、いろいろなテーマによる即興表現を工夫したり、気に入ったテーマを作品にまとめたりして、みんなで楽しく交流し、発表することができるようにする。
体育理論 ・オリンピックとパラリンピックの意義 ・スポーツが経済に及ぼす効果	・オリンピックとオリンピック、パラリンピックの意義や価値について説明できる。 ・スポーツが経済活動でどのような役割を果たしているか、説明できる。	
期末考査		
3学期	バレー(男子)	・チームの課題や自己の能力に応じた技能の向上、戦術・作戦を生かした攻防の展開ができるようにする。互いに協力するとともに、勝敗に対して公正な態度がとれるようにする。また、安全に練習ができるようにするとともに、計画的な練習や競技会の企画・運営ができるようにする。
	バスケ(女子)	・チームの課題や自己の能力に応じた技能の向上、戦術・作戦を生かした攻防の展開ができるようにする。互いに協力するとともに、勝敗に対して公正な態度がとれるようにする。また、安全に練習ができるようにするとともに、計画的な練習や競技会の企画・運営ができるようにする。
	体育理論 ・スポーツの高潔さとドーピング ・スポーツと環境	・ドーピングの高潔さを脅かす要因とスポーツとの関わりを理解する。スポーツにおける環境問題やスポーツと環境との調和について説明できる。
期末考査		

令和8年度 年間指導計画

教科	科目	学年	単位数	必選別
保健体育	体育	2	2	必修
教科書	アクティブスポーツ			
使用教材	なし			
学習の目標				
①知識・技能	・技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法を理解するとともに、勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決する力を養う。			
②思考・判断・表現	・チームや自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己やチームの考えたことを他者に伝えることができる。			
③主体的に学習に取り組む態度	・周囲の安全に留意しながら主体的に活動に取り組むとともに、合意形成に貢献しようとしたり、互いに助け合い高め合おうとしたりすることができる。			
評価の観点				
①知識・技能	技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法を理解しているか。勝敗を競う中で、チームや自己の課題を解決しようとしているか。			
②思考・判断・表現	・チームや自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫しているか。自己やチームの考えたことを他者に伝えることができているか。			
③主体的に学習に取り組む態度	・周囲の安全に留意しながら主体的に活動に取り組んでいるか。合意形成に貢献しようとしたり、互いに助け合い高め合おうとしたりしているか。			
評価の方法				
①知識・技能	・実技テスト			
②思考・判断・表現	・チームでの話し合い、学習カードの記載内容			
③主体的に学習に取り組む態度	・活動への取り組み状況、学習カードの記載内容			

〈授業計画〉

学期	単元	学習内容(到達度目標)
1学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体づくり運動</li> <li>・新体力テスト</li> <li>・陸上競技</li> <li>・体育理論</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動を通して自分や仲間のからだや心の状態に気づき、からだの調子を整えたり、仲間と楽しく交流する</li> <li>・各種の運動・スポーツ種目に関連する体力および健康に関連する体力を向上させる。</li> <li>・自分の運動能力・体力を知る</li> <li>・速く走るための技術とその練習方法を身につけることができる。</li> <li>・技能と体力の関係や技能の型の違い、練習方法、ルールの変化などを理解する。</li> </ul>
2学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サッカー(男子)</li> <li>・バドミントン(女子)</li> <li>・柔道・ダンス(柔道、ダンスから1種目選択、男女共習)</li> <li>・体育理論</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・技術の名称や行い方などを理解するとともに、仲間と連携しゲームを展開すること、生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題に取り組み、考えたことを他者に伝えること及び球技に主体的に取り組むことができるようにする。</li> <li>・技の名称や行い方を理解するとともに、攻防を展開すること、課題に取り組む中で考えたことを他者に伝えること及び柔道に主体的に取り組むことができる。</li> <li>・ダンスの用語、交流や発表の仕方、課題の解決方法、体力の高め方などを理解するとともに、表現や踊りを身につけて交流や発表をすることができる。</li> <li>・技能の上達過程、技能上達時の特徴、体の動きのしくみなどについて理解する。</li> </ul>
3学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バドミントン(男子)</li> <li>・バスケットボール(女子)</li> <li>・体育理論</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・技術の名称や行い方などを理解するとともに、仲間と連携しゲームを展開すること、生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題に取り組み、考えたことを他者に伝えること及び球技に主体的に取り組むことができる。</li> <li>・目的に応じたトレーニング方法や筋力、持久力、調整力、柔軟性を高める具体的な方法を理解する。</li> </ul>

令和8年度 年間指導計画（新課程）

教科	科目	学年	単位数	必選別
保健体育	体育	3	2	必
教科書	アクティブスポーツ2023			
使用教材	なし			
学習の目標				
①知識・技能	各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。			
②思考・判断・表現	運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。			
③主体的に学習に取り組む態度	生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。			
評価の観点				
①知識・技能	運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。			
②思考・判断・表現	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。			
③主体的に学習に取り組む態度	生涯にわたって継続して運動に親しむために、運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするとともに、健康・安全を確保している。			
評価の方法				
①知識・技能	①技能検査、授業での行動観察			
②思考・判断・表現	②学習カードの記載、話し合い、行動観察			
③主体的に学習に取り組む態度	③学習カードの記載、授業形態に応じた学習態度			

〈授業計画〉

学期	単元	学習内容(到達度目標)
1学期	体づくり運動	・運動を通して自分や仲間のからだや心の状態に気づき、からだの調子を整えたり、仲間と楽しく交流したりする。
	新体力テスト	・体の使い方を考えながら運動種目の計測を行い、測定結果をもとに、自身の体力の現状を知る。
	陸上競技(短距離走・リレー)	短距離走では、中間走の高いスピードを維持しながら、走りきることができる。リレーではスピードを活かし、次走者と前走者の距離を長くした状態でバトンを受け渡してできるようになる。
	選択授業① ソフトボール サッカー バドミントン (男女共習)	・チームの課題や自己の能力に応じた技能の向上、戦術・作戦を生かした攻防の展開ができるようにする。互いに協力するとともに、勝敗に対して公正な態度がとれるようにする。また、安全に練習ができるようにするとともに、計画的な練習や競技会の企画・運営ができるようにする。
	体育理論	・一人ひとりが生涯を通じてスポーツに積極的にかかわることができるよう、身近な地域でのスポーツの状況や活動内容、課題などを理解する。
2学期	選択授業① ソフトボール サッカー バドミントン (男女共習)	・チームの課題や自己の能力に応じた技能の向上、戦術・作戦を生かした攻防の展開ができるようにする。また、安全に練習ができるようにするとともに、仲間と計画的な練習や企画・運営ができるようにする。
	選択授業② バレーボール バスケットボール バドミントン (男女共習)	・チームの課題や自己の能力に応じた技能の向上、戦術・作戦を生かした攻防の展開ができるようにする。また、安全に練習ができるようにするとともに、仲間と計画的な練習や企画・運営ができるようにする。
	体育理論	・個人の目的や、健康状態、年齢など様々な条件にあわせて、適切なスポーツライフの設計ができるようする。 ・一人ひとりが生涯を通じてスポーツに積極的にかかわることができるよう、身近な地域でのスポーツの状況や活動内容、課題などを理解する。
3学期	選択授業② バレーボール バスケットボール バドミントン (男女共習)	・チームの課題や自己の能力に応じた技能の向上、戦術・作戦を生かした攻防の展開ができるようにする。また、安全に練習ができるようにするとともに、仲間と計画的な練習や企画・運営ができるようにする。

令和8年度 年間指導計画（新課程）

教科	科目	学年	単位数	必選別
保健体育	保健	1	1	必
教科書	現代高等 保健体育 改訂版(大修館)			
使用教材	現代高等保健体育ノート 改訂版			
学習の目標				
①知識・技能	・個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身につけるようにする。			
②思考・判断・表現	・健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。			
③主体的に学習に取り組む態度	・生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。			
評価の観点				
①知識・技能	・個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めているとともに、技能を身につけている。			
②思考・判断・表現	・健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて施行し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝えている。			
③主体的に学習に取り組む態度	・生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営もうとしている。			
評価の方法				
①知識・技能	・課題レポートの提出及び定期考査			
②思考・判断・表現	・意見発表及び発問に対する回答内容			
③主体的に学習に取り組む態度	・日常の授業態度及び課題の提出状況			

〈授業計画〉

学期	単元	学習内容(到達度目標)
1学期	1単元 現代社会と健康 1、健康の考え方と成り立ち 2、私たちの健康のすがた 3、生活習慣病の予防と回復 4、がんの原因と予防 5、がんの治療と回復 6、運動と健康 7、食事と健康 8、休養・睡眠と健康 9、喫煙と健康  期末考査	・日本の健康水準が、科学技術や経済の発展に伴って向上してきたこと、病気の傾向が変化してきていることを理解する。 健康水準の向上、疾病構造の変化に伴い、個人や集団の健康についての考え方も変化してきていることについて、理解する。 ・現代の死因の大部分を占める生活習慣病について、原因とその予防に対する対策について理解する。 がんは、肺がん、大腸がん、胃がんなど様々な種類があり、生活習慣のみならず細菌やウイルスの感染などの原因もあることについて理解する。 ・がんの予防と回復には、個人の取組とともに、健康診断やがん検診の普及、正しい情報の発信など社会的な対策が必要であることについて、理解する。 ・健康を保持・増進するとともに、生活習慣病を予防するために、基本的な生活習慣である「食事」の意義や役割について理解する。 ・「食事」とともに、基本的な生活習慣としての「運動」を重視し、その役割や実践方法について理解する。 ・生活習慣としての「休養・睡眠」の、単に肉体的疲労回復にとどまらない今日的な捉えかたや、睡眠のリズムについて理解する。 ・喫煙者本人のみでなく、周囲の人への健康影響などについて理解を深め、喫煙に関する適切な意志決定や行動選択をできるようにする。
2学期	10、飲酒と健康 11、薬物乱用と健康 12、精神疾患の特徴 13、精神疾患の予防 14、精神疾患からの回復 15、現代の感染症 16、感染症の予防 17、性感染症・エイズとその予防 18、健康に関する意思決定・行動選択 19、健康に関する環境づくり  期末考査	・アルコールの作用や、それに伴う健康障害についての理解を深め、飲酒に関する適切な意志決定や行動選択をできるようにする。 ・薬物乱用は、心身の健康に対して深刻な影響を与えることを理解し、絶対に薬物に手を出さない強い意志を身につける。 ・精神疾患は、精神機能の基盤となる心理的、生物的、または社会的な機能の障害などが原因となり、認知、情動、行動などの不調により、精神活動が不全になった状態であることについて理解する。 ・精神疾患の予防と回復には、身体の健康と同じく、適切な運動、食事、休養及び睡眠など、調和のとれた生活を実践すること、早期に心身の不調に気付くこと、心身に起こった反応については体ほぐしの運動などのリラクゼーションの方法でストレスを緩和することなどが重要であることについて理解する。 ・感染症が発症する仕組みや、感染症の種類を知り、感染症の予防には適切な対策が必要であることについて理解する。 ・性感染症について正しい知識をもち、感染経路やその予防法について理解する。 ・健康に関する4つの要因を知り、健康を保持・増進するためには適切な意志決定や行動選択が必要であることを理解する。
3学期	2単元 安全な生活 1、事故の現状と発生要因 2、安全な社会の形成 3、交通における安全 4、応急手当の意義とその基本 5、日常的な応急手当 6、健康に関する環境づくり  期末考査	・交通事故を防止するためには、車両の特性の理解、安全な運転や、歩行などの適切な行動が重要であることについて理解する。 ・交通事故の防止のために、車両の特性に応じた安全対策が必要なことを知り、交通事故には責任や補償問題が生じることについて理解する。 ・交通事故の防止のために行われている対策について知り、安全に暮らすための意識や行動について理解する。 ・応急手当の重要性を知り、傷病者の観察や応急手当の正しい手順について理解する。 ・健康を保持増進するための環境には、自然環境、及び政策や制度、地域活動などの様々な社会環境があることについて理解する。

令和8年度 年間指導計画

教科	科目	学年	単位数	必選別
保健体育	保健	2	1	必修
教科書	現代高等 保健体育(大修館)			
使用教材				
学習目標				
①知識・技能	・個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。			
②思考・判断・表現	・健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他社に伝える力を養う。			
③主体的に学習に取り組む態度	・生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育てる。			
評価の観点				
①知識・技能	・個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めているとともに、技能を身につけている。			
②思考・判断・表現	・健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて施行し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝えている。			
③主体的に学習に取り組む態度	・生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営もうとしている。			
評価の方法				
①知識・技能	・課題レポートの提出及び定期考査			
②思考・判断・表現	・意見発表及び発問に対する回答内容			
③主体的に学習に取り組む態度	・日常の授業態度及び課題の提出状況			

〈授業計画〉

学期	単元	学習内容(到達度目標)
1学期	1. ライフステージと健康	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ライフステージと健康の関連について説明できる。</li> <li>・思春期における体の変化を女性と男性に分けて説明できるとともに、思春期の心の発達にかかわって起こる問題について例を上げることができる。</li> <li>・性意識の男女差を、性的欲求のあらわれ方の違いを例にして説明できるとともに、性に関する情報が性行動の選択に及ぼす影響について、具体例をあげることができる。</li> <li>・妊娠・出産の過程における健康課題について説明できる。また、妊娠・出産期に活用できる母子保健サービスの例をあげることができる。</li> <li>・家族計画の意義と適切な避妊法、人工妊娠中絶が心身に及ぼす影響について説明できる。</li> <li>・心身の発達と結婚生活の関係について説明でき、結婚生活を健康的に送るために必要な考え方や行動をあげることができる。</li> <li>・加齢にともなう心身の変化と高齢社会に必要な社会的な取り組みについて例を挙げて説明できる。</li> </ul>
	2. 思春期と健康	
	3. 性意識と性行動の選択	
	4. 妊娠・出産と健康	
	5. 避妊法と人工妊娠中絶	
	6. 結婚生活と健康	
	7. 中高年期と健康	
2学期	8. 働くことと健康	<ul style="list-style-type: none"> <li>・働くことの意義と健康とのかかわり、働き方や働く人の健康問題の変化について説明できる。</li> <li>・労働災害の種類とその原因について例を挙げて説明できる。また、労働災害を防止するために必要なことをあげることができる。</li> <li>・職場がおこなう健康に関する取り組みについて例を挙げて説明できる。また、余暇を積極的にとることの意義について説明できる。</li> <li>・大気汚染の健康への影響を、原因物質の例をあげ説明することができる。</li> <li>・水質汚濁の健康への影響を、原因物質の例をあげ説明することができる。</li> <li>・土壌汚染の健康への影響を、原因物質の例をあげ説明することができる。</li> <li>・環境汚染による健康被害を防ぐ方法、産業廃棄物の処理について説明できる。</li> <li>・ごみの処理の現状やその課題、上下水道のしくみと健康にかかわる課題を説明できる。</li> <li>・食品の安全性と健康のかかわりについて説明できる。</li> <li>・食品の安全性を確保するための行政や製造者、個人の役割について説明できる。</li> </ul>
	9. 労働災害と健康	
	10. 健康的な職業生活	
	11. 大気汚染と健康	
	12. 水質汚濁、土壌汚染と健康	
	13. 環境と健康にかかわる対策	
	14. ごみの処理と上下水道の整備	
	15. 食品の安全性	
	16. 食品衛生にかかわる活動	
3学期	17. 保健サービスとその活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健行政の役割、保健サービスの活用について例をあげて説明できる。</li> <li>・わが国における医療保険のしくみ、さまざまな医療機関の役割について説明できる。</li> <li>・医薬品の正しい使用方法について説明できる。</li> <li>・医薬品の安全性を守る取り組みについて例をあげて説明できる。</li> <li>・国際機関・民間企業などの保健活動について例をあげて説明できる。</li> <li>・行政機関による社会的対策について例をあげて説明できる。</li> <li>・職場の健康増進対策と日常生活での健康増進について説明することができる。</li> </ul>
	18. 医療サービスとその活用	
	19. 医薬品の制度とその活用	
	20. さまざまな保健活動や社会的対策	
	21. 健康に関する環境づくりと社会参加	

令和8度 年間指導計画

教科	科目	学年	単位数	必選別
芸術	音楽Ⅰ	1	2	選択必修
教科書	高校生の音楽Ⅰ			
使用教材	音楽研究ノート			
学習の目標				
①知識・技能	・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。			
②思考・判断・表現	・自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。			
③主体的に学習に取り組む態度	・主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。			
評価の観点				
①知識・技能	・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、搜索で表している。			
②思考・判断・表現	・音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聞いたりしている。			
③主体的に学習に取り組む態度	・主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。			
評価の方法				
①知識・技能	・筆記テスト ・ワークシート			
②思考・判断・表現	・筆記テスト ・演奏表現 ・行動観察			
③主体的に学習に取り組む態度	・自己評価と相互評価 ・ノート ・行動観察			

〈授業計画〉

学期	題材	学習内容(到達度目標)
1学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近な音楽 「校歌」「翼をください」 「故郷」「ひまわりの約束」</li> <li>キーボードアンサンブル 「威風堂々」</li> <li>楽典 音名、音程、反復記号 調号と臨時記号</li> <li>筆記テスト</li> </ul>	<p>音色や強さを保ちながら息を吐く方法や、息の流れを安定させて響きを保ちながら歌う方法を身に付けて、曲のイメージをもち、曲想と歌詞の関わりや旋律の特徴を理解して、表現を創意工夫して歌う。</p> <p>曲想と楽器の音色や奏法及び音楽の構造について理解し、曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能を身に付け、楽器で表す。 互いの演奏をよく聴き合い、自分の旋律やリズムの重なり、反復、変化を感じ取りながら演奏する。</p> <p>音名、音程に関する基礎的な知識・法則を理解する。 音名、音程や各種記号を学習することに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に学習活動に取り組む。</p>
2学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界の歌、日本の歌 「Caro mio ben」(伊) 「Heidenroslein」(独) 「A Whole New World」(英) 「この道」</li> <li>ボディー・パーカッション (創作) 「クラッピング・カルテット 第1番」</li> <li>ギター演奏(創作) 「Scarborough Fair」 「Country Roads」 「Greensleeves」</li> <li>トーンチャイム演奏</li> <li>楽典 音階、調号と調性、 音符と休符</li> <li>筆記テスト</li> </ul>	<p>外国語の発音の特徴を捉え、リズムと旋律との関わりを理解し、歌詞の内容と曲の雰囲気合う表現を創意工夫して歌う。</p> <p>音符や休符の長さを意識してリズムを正確に打ち、強弱の変化や曲の構造を理解するとともに、手拍子の音色を工夫し、リズム・アンサンブルの表現を創意工夫して演奏する。</p> <p>曲想と楽器の音色や奏法及び音楽の構造について理解し、曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能を身に付け、器楽で表す。 音楽を形づくっている要素の働きを変化させ、変奏や編曲をする技能を身に付け、創作で表す。</p> <p>音階、音価に関する基礎的な知識・法則を理解する。 音階や音価を学習することに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に学習活動に取り組む。</p>
3学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本の伝統音楽 (篠笛)</li> <li>楽典 和音</li> <li>筆記テスト</li> </ul>	<p>曲想と楽器の音色や奏法及び音楽の構造、文化的・歴史的背景との関わりについて理解し、曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能を身に付け、器楽で表す。 篠笛の音色や奏法の特徴、様々な日本の伝統芸能に興味関心を持ち、主体的・協働的に器楽や鑑賞の学習活動に取り組む。</p> <p>和音に関する基礎的な知識・法則を理解する。 和音を学習することに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に学習活動に取り組む。</p>

令和8年度 年間指導計画

教科	科目	学年	単位数	必選別
芸術	美術 I	1	2単位	選択必修
教科書	美術1(光村)			
使用教材				
学習概要 (目標・ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。</li> <li>・与えられた課題に向かって努力し、主体的に行動に移せる能力と精神を養う。</li> <li>・様々な道具の使い方や技法、美術史や郷土作家などについて学習し、制作活動に生かせる知識を養う。</li> </ul>			
評価の観点				
①知識・技能	材料や用具の特性を活かして表現方法を工夫して制作できたか。 対象をよく観察、またはイメージ化し、造形的な視点を養うことができたか。			実践力
②思考力・判断力・表現力	制作意図に応じて創意工夫し、よりよい方法・作品になるようにを模索したか。			創造力
③主体的に学習に取り組む態度	美術の意義、美術作品のよさや美しさを理解し、心豊かな生活や社会を創造する態度を身につけられたか。			自主性
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の思いや考えが表現できるよう構想を練り、形態や色彩を創意工夫することができたか。</li> <li>・また作品鑑賞では、自分の感じた事を文章などで表現することができたか。</li> </ul>			

(授業計画)

学期	単元	学習内容(到達目標)	
1学期	オリエンテーション	・1年間の学習の取り組みについて理解する。	自己理解 観力
	絵画 鉛筆を使ったスケッチ 「日常の風景」「顔」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モチーフをしっかり観察することを意識し、集中して描く。</li> <li>・モチーフの形体や色、質感などの特徴を捉えて描く。</li> <li>・光の方向を意識して陰影をつけたり、形に添ってハッチングすることによって形態を立体的に表す。</li> </ul>	実践力
	絵画 油彩画「静物画」F8号	<ul style="list-style-type: none"> <li>・油絵の具の基本的な使い方を学習する。</li> <li>・遠近法を理解し奥行きのある構図を考える。</li> <li>・色彩について学習する。</li> <li>・重色、混色について学習する。</li> <li>・描いた作品の造形的な美しさを感じ取り</li> </ul>	実践力
	講評会	・他者の作品から良い部分を学習し今後役に立つ想像力を養う。	自主性
2学期	工芸	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各地の伝統工芸についての興味関心を高める。</li> <li>・自然素材のもつ魅力と、作品に出る効果について理解を深める。</li> <li>・テーマやコンセプトを実現するように工夫したアイディアスケッチを仕上げる。</li> </ul>	
	映像メディア表現(ビデオ鑑賞)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アニメーションの手法、歴史を学習する。</li> <li>・カメラについての歴史について学習する。</li> </ul>	探究力
	立体制作・デザイン	<ul style="list-style-type: none"> <li>・使う場面や目的に合わせて形状を考えそれを実際に製作できる能力を養う。</li> <li>・ユニバーサルデザインについて理解する。</li> <li>・塑造(モデリング)と彫刻(カービング)について学習する。</li> <li>・使用する目的から、使いやすい形状を考え、スタイロフォームを使ってプロダクトデザインを実践する。</li> </ul>	実践力 探究力
	造形 発表会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・粘土やスタイロフォームを素材とし、日常的なモチーフを再現する</li> <li>・正しい道具の使い方を知り、工夫して使用する。</li> </ul>	実践力
2学期	デッサン基礎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幾何学形をモチーフにして、形をとらえる基礎を学ぶ。</li> <li>・明暗を使って立体的に見せる方法を学ぶ。</li> </ul>	実践力
	作品講評会	・他者の作品から良い部分を学習し今後役に立つ想像力を養う。	自主性
	絵画 油彩画 「自画像(自己表現)」 F10号	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分らしさをテーマに、自画像を描く</li> <li>・色や、筆使いを工夫し、人の感情や、思い、状況を表現する方法を学ぶ。</li> <li>・油絵の具の使い方や特徴について理解し、重ね塗り、タッチ、マチェールなどを工夫し、思いを表現する。</li> <li>・混色、重色の効果を考えながら計画的に作業を進める。</li> </ul>	
	鑑賞(現代美術) 講評会	・他者の作品から良い部分を学習し今後役に立つ想像力を養う。	創造力
	鑑賞(富山県の作家)	・富山県ゆかりの作家などについて学習する。	自主性

令和8年度 年間指導計画

教科	科目	学年	単位数	必選別
芸術	書道 I	1	2	選択必修
教科書	書道 I (光村図書)			
使用教材				
学習概要 (目標・ねらい)	(1)「漢字の書」の学習 ・古典の臨書を通して様々な書風に触れ、表現技術を高め、創作に生かすことができる。 (2)「仮名の書」の学習 ・仮名の成り立ちを理解し、その美しさや表現技術を学びとることができる。 (3)「漢字仮名交じりの書」の学習 ・身近にあることばや詩文を題材に漢字と仮名の調和を図り、用具用材や、字形・文字の大きさ、全体構成等を工夫することで自分の意図に基づく表現をすることができる。			
評価の観点				
①知識・技能	日常生活における書の効用や、日本及び中国の書文化などを理解し、そのよさや美しさを創造的に味わうことができる。			
②思考力・判断力・表現力	感性や想像力を働かせて書のよさや美しさを感じ取り、自らの意図に基づき構想し、表現を工夫することができる。			
③主体的に学習に取り組む態度	日常生活における書の効用や、日本及び中国の書文化などを理解し、そのよさや美しさを創造的に味わうことができる。			
評価の方法	①日常の授業態度 ②「学習記録カード」の記入状況 ③提出作品 ④発問に対する回答の評価 ⑤実技試験・筆記試験			

〈授業計画〉

学期	単元	学習内容(到達度目標)
1学期	1 書写から書道へ ・書分野、書体について ・古典と臨書について	・中学校までの書写の学習を振り返る。 ・書写と書道の共通性と相違を理解し、書の世界を知る。 ・書分野、古典とその臨書、用具、運筆・用筆法について知り、学習の意義とその方法を理解する。
	2 楷書の学習 ・孔子廟堂碑の鑑賞と臨書 ・九成宮醴泉銘の鑑賞と臨書	
2学期	・雁塔聖教序の鑑賞と臨書 ・顔氏家廟碑の鑑賞と臨書 ・牛擲像造記の鑑賞と臨書 ・楷書作品の創作 実技・筆記試験	・代表的な楷書古典を鑑賞し、それぞれの筆者や時代背景などを理解し、基本的な点画や線質の表現法と用筆・運筆の関係、書風など臨書学習により習得する。 ・臨書の書風と漢字の持つ意の表現について理解する。
	3 刻字の学習 ・表札の制作	・姓または名を板に刻し基本的な刻字の技法を習得する。
	4 隷書の学習 ・隷書の特徴 ・曹全碑の鑑賞と臨書	・隷書の特徴について理解を深める。 ・代表的な隷書古典である曹全碑を鑑賞・臨書し、隷書の基本的な用筆法を習得する。
3学期	5 行書の学習 ・行書の特徴 ・蘭亭序の鑑賞と臨書 ・風信帖の鑑賞と臨書	・行書の特徴について理解を深める。 ・代表的な行書古典である蘭亭序・風信帖を鑑賞・臨書し、行書の基本的な用筆法を習得する。 ・我が国独自の文字である仮名の書の成立過程と字源について理解を深める。 ・仮名の基本点画について理解する。 ・仮名の筆使いに慣れ基本的な用筆法を習得する。
	6 仮名の書の学習 ・仮名の基本点画 ・平仮名の単体の練習 実技・筆記試験	
3学期	・連綿の練習 ・高野切第三種の鑑賞と臨書 7 漢字仮名交じりの書の学習 ・漢字と仮名の調和 ・古典を基にしての作品づくり ・用筆、運筆の工夫 ・文字の大きさ、配置の工夫	・基本的な古典の鑑賞・臨書をとおして仮名の書の美を理解する。 ・1・2学期の漢字及び仮名の学習を基に、漢字仮名交じりの書の創作をする。 ・詩文、形式、構成などを工夫し漢字と仮名の調和の方法を考え、自分なりに表現する。

令和8年度 年間指導計画

教科	科目	学年	単位数	必選別
外国語	英語コミュニケーション I	1	3	必修
教科書	Power On English Communication I Revised [東京書籍]			
使用教材	学習者用デジタルブック Power on English Communication I Revised [東京書籍]、WORDBOX[美誠社]			
学習の目標				
①知識・技能	外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身につけるようにする。			
②思考・判断・表現	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。			
③主体的に学習に取り組む態度	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。			
評価の観点				
①知識・技能	・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。 ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身につけている。			
②思考・判断・表現	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。			
③主体的に学習に取り組む態度	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。			
評価の方法				
①知識・技能	・言語活動の取り組み状況の観察(②, ③)			
②思考・判断・表現	・各Lesson Actionのパフォーマンス(②, ③)			
③主体的に学習に取り組む態度	・上記課題等の提出(①, ②, ③) ・Part確認テスト, 中間・期末考査, 評価問題など(①, ②)			

〈授業計画〉

学期	単元	学習内容(到達度目標)
1学期	オリエンテーション Lesson 1 Japan's New Tourism	発音記号を見て発音することができる。 「ニューツーリズム」について、聞いたり読んだりしたことを基に情報や考えなどを理由とともに話して伝えることができる。
	Lesson 2 Light from Creatures	いろいろな光る生き物についての話を読み、その光る理由について理解し、生き物の生態について、自分の考えを理由とともに話して伝えることができる。
	中間考査	
	Lesson 3 One Small Goal at a Time Lesson 4 Miniature Life	野球選手である吉田正尚選手について書かれた記事を読み、吉田選手の野球に対する思いや夢について理解し、自分の夢について話して伝えることができる。 ミニチュア写真家、見立て作家である田中達也さんの紹介とインタビュー記事を読み、田中さんの見立てや作品について自分の考えを話して伝えることができる。
2学期	Lesson 5 Banana Paper	バナナやバナナペーパー、バナナペーパープロジェクトについて読み、バナナペーパー製品やバナナペーパーの販売促進について理解し、自分の考えを理由とともに話して伝えることができる。
	Lesson 6 Patterns in Human Behavior	人間の行動に関する心理学実験の手順や結果について読み、人間の行動に関する話題や行動をコントロールする方法について理解し、自分の考えを理由とともに話して伝えることができる。
	中間考査	
	Lesson 7 No Plastic or No Future Lesson 8 Oh My Cod!	プラスチックごみによる海洋汚染について読み、プラスチックごみに関する話題やごみを減らす対策について理解し、自分の考えを理由とともに話して伝えることができる。 食料資源、フィッシュ・アンド・チップスの起源や歴史について読み、食べ物やマグロ漁獲量の現状について理解し、自分の考えを理由とともに話して伝えることができる。
3学期	Lesson 9 Is Esports a Real Sport?	e スポーツの現状、利点や欠点について読み、e スポーツやe スポーツの利点について理解し、自分の考えを理由とともに話して伝えることができる。
	Lesson 10 Never Too Late to Learn and Relearn	デザイナー、アーティストの篠原ともえさんと彼女がデザインしたエゾ鹿革の着物についての記事を読み、篠原さんの考えと彼女の作品について理解し、自分の考えを理由とともに話して伝えることができる。
	期末考査	

令和8年度 年間指導計画

教科	科目	学年	単位数	必選別
家庭	家庭基礎	1	2	必修
教科書	家庭基礎 自立・共生・創造(東京書籍)			
使用教材	家庭基礎 学習ノート 自主・共生・創造(東京書籍)			
学習の目標				
①知識・技能	・人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。			
②思考・判断・表現	・家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。			
③主体的に学習に取り組む態度	・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。			
評価の観点				
①知識・技能	・生活を主体的に営むために必要な人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などの基礎的なことについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。			
②思考・判断・表現	・生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。			
③主体的に学習に取り組む態度	・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。			
評価の方法				
①知識・技能	・定期考査、実習、授業での質問			
②思考・判断・表現	・発表、話し合い、作品製作、レポート			
③主体的に学習に取り組む態度	・ノート、レポート、自己評価シート、発言、授業形態に応じた学習態度			

〈授業計画〉

学期	単元	学習内容(到達度目標)
1学期	「家庭基礎」を学ぶにあたって 食生活をつくる 1 食生活の課題について考える 2 食事と栄養・食品 3 食品の選択と安全	・よりよい食生活を身につけ、生涯を健康に過ごすために、食生活の課題や食事の意義、食生活を取り巻く環境の変化などを理解する。 ・自分や家族が健康に過ごす食生活に役立てるために、栄養素の種類と機能や食品の栄養的特質や調理について、科学的な理解を深める。 ・安全で衛生的な食生活を営むために食品の選び方、保存や加工の方法、食中毒や食物アレルギー、安全を確保するための仕組みに関する知識を身につける。
	5調理実習 衣生活をつくる 1 被服の役割を考える 2 被服を入手する 3 被服を管理する ホームプロジェクトと家庭 クラブ活動 期末考査	・調理の基礎的技術を身につける。  ・用途に合った着装を実践できる力を身につけるために、社会生活を営む上での被服の役割を理解する。 ・被服表示を参考にして目的に応じた被服入手と着装について考えられる力を身につけるために、被服の材料や性能、加工について科学的に理解する。 ・ホームプロジェクトと家庭クラブ活動について意義と実施方法について理解する。
2学期	人生をつくる 1 人生をつくる	・生涯を見通して自分のライフスタイルを考えることができるように、さまざまな生き方について理解する。
	子どもと共に育つ 1 命を育む 2 子どもの育つ力を知る 3 子どもと関わる 超高齢社会を共に生きる 1 超高齢・大衆長寿社会を迎えて 2 高齢期の心身の特徴  期末考査	・命に対する責任や社会の一員として次世代を育む責任を持つために、性と生殖に関する健康について理解する。 ・子どもの発達に応じて適切に関わるようになるために、子どもが生まれつき持っている能力や心身の発達について理解する。  ・超高齢社会の背景を理解する。 ・加齢に伴う心身の変化や高齢者の生き方や尊厳について理解を深める。
3学期	住生活をつくる 1 住生活の変遷と住居の機能 2 安全で快適な住生活の計画	・生涯を見通した住生活について考え、将来に向けて自立するために、私たちの毎日の生活を支え生活拠点となる住居の機能やライフステージごとの住要求を理解する。
	経済生活を営む 1 情報の収集・比較と意志決定 2 購入・支払いのルールと方法  期末考査	・自立した責任ある消費者として、よりよい意志決定ができるよう、現代の消費生活における意志決定の重要性と情報の活用について理解する。

令和8年度 年間指導計画（新課程）

教科	科目	学年	単位数	必選別
情報	情報 I	1	2	必修
教科書	(実教7 情 I 007-902)最新情報 I 新訂版			
使用教材	最新情報 I 新訂版 学習ノート			
学習の目標				
①知識・技能	効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについて理解を深めるようにする。			
②思考・判断・表現	様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。			
③主体的に学習に取り組む態度	情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。			
評価の観点				
①知識・技能	効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解し、技能を身に付けているとともに、情報社会と人との関わりについて理解している。			
②思考・判断・表現	事象を情報とその結び付きの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。			
③主体的に学習に取り組む態度	情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。			
評価の方法				
①知識・技能	・定期考査、小テスト、授業での質問			
②思考・判断・表現	・実習、提出課題、発表、グループ活動、ワークシート			
③主体的に学習に取り組む態度	・実習、提出課題、発表、ワークシート、授業形態に応じた学習態度			

〈授業計画〉

学期	単元	学習内容(到達度目標)
1学期	1章情報社会と問題解決 情報と情報社会	情報やデータ、知識の創出について学ぶ。また、社会の発展と基盤技術、新しい情報社会について理解する。
	知的財産と個人情報	知的財産権について理解する。
	問題解決	問題解決の手順、および問題発見の方法について理解する。 問題の明確化、情報の分析、解決案の検討や決定ができるようになる。
	2章コミュニケーションと情報デザイン メディアとコミュニケーション	メディアの機能や分類について理解し、メディアの発達について知る。
2学期	情報デザイン	社会の中で利用されている情報デザインについて理解する。 情報を分類したり、わかりやすく表現したりする方法について理解する。
	情報デザインの実践	報告書やレポート、論文を作成するための手順について理解する。 プレゼンテーションの手順とスライド作成について理解する。
	3章情報のデジタル化とコンピュータ 情報のデジタル表現	アナログとデジタルの違い、2進数と情報量の関係について理解する。 数値や文字をデジタル化する方法を理解する。
	コンピュータの仕組みと動作	コンピュータの構成や動作、情報機器の接続、ソフトウェアの種類について理解する。 コンピュータでの数値の計算方法について理解する。
3学期	4章アルゴリズムとプログラミング アルゴリズムとプログラミング	アルゴリズムを用いてプログラムを表現する方法を理解する。 プログラミングの手順とプログラミング言語の種類とその特徴について理解する。
	プログラミングの実践	変数を使用したプログラムを作成する。 関数を使用したプログラムを作成する。 多くのデータから目的のデータを探し出したり、数値を並べ替えたりするプログラムを作成する。
	5章情報通信ネットワークとセキュリティ 情報通信ネットワーク	情報通信ネットワークの構成について理解する。 ネットワークを効率的に利用するための取り決めについて理解する。
3学期	情報セキュリティ	情報セキュリティの脅威に対するさまざまな安全対策について理解する。
	情報システム	身のまわりの情報システムについて理解する。 データベースの種類とその仕組みについて理解する。
	6章データの活用とシミュレーション データの活用	データを収集したり整理したりする方法について理解する。
	モデル化とシミュレーション	モデル化の意味、分類、モデル化の手順について理解する。
シミュレーションの実践	確定的モデルのシミュレーションを行う。	

令和8年度 年間指導計画

教科	学年	単位数	必選別
産業社会と人間	1	2	必修
学習概要 (目標・ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路を決定するにあたって、自分を知り、進路に関する幅広い知識を得る。</li> <li>・将来について考え、進路を切りひらく力をつける。</li> <li>・社会のしくみや問題点を知り、自分のあり方や生き方について考える。</li> </ul>		
評価の観点	<ul style="list-style-type: none"> <li>①知識 技能                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・実践力 自分の考えに基づき計画し、実行する力を身に付ける。</li> <li>・協働力 他者と協力し、物事に取り組む態度を身に付ける。</li> </ul> </li> <li>②思考力 判断力 表現力                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・探究力 自ら課題を見つけ、知識・技能を活用し、その課題を解決する力を身に付ける。</li> <li>・発信力 自分の考えを分かりやすく他者に伝える方法を身に付ける。</li> <li>・創造力 新しいことや、もっとよいものにできないか考える力を身に付ける。</li> </ul> </li> <li>③学びに向かう力 人間性                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・自主性 自ら課題を見つけ、何事にも進んで取り組む態度を身に付ける。</li> <li>・人間関係 自分の知識や他者の意見を参考にして自分の行動を決定する力を身に付ける。</li> <li>形成能力</li> <li>・自己管理 自分のやるべきことを理解し、目標を立てて実行する態度を身に付ける。</li> <li>能力</li> </ul> </li> </ul>		
評価の方法	次の観点から総合的に評価する。 ① 知識・技能を生かし、計画を立て他者と協力して課題に取り組むことができる。 ② レポート作成や意見発表の場で他者により分かりやすく発信することができる。 ③ 他者の意見を参考に新たな目標に向かって意欲的に取り組むことができる。		

〈授業計画〉

学期	活動内容
1学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリエンテーション 科目「産業社会と人間」の進め方について理解する。 教務部・育成指導部・特活指導部より高校生活について説明を受ける。</li> <li>・コミュニケーション講座 他者とのコミュニケーションの取り方や集団づくりについて体験を通じて学ぶ。</li> <li>・系列・科目登録ガイダンス(1) 小杉高校の系列について理解を深める。</li> <li>・自己理解 自分の性格やこれまでの歩みを振り返ることで自らの特性について知り、進路を考えるうえの一助にする。</li> <li>・キャリア講演会 進学とその先の情報を伝え、自ら考え自ら歩む姿勢を育成する。</li> <li>・上級学校訪問 地域の大学・短大を見学することで、上級学校に対する意識を高める。</li> </ul>
2学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域課題についての講話 自分達が暮らす街や小杉高校周辺地域の課題、現代社会のニーズについて知る。</li> <li>・系列・科目登録ガイダンス(2) 自分の能力、適性、進路等を踏まえ、系列選択を考える。</li> <li>・進路ガイダンス 様々な分野の学習内容について、理解を深める。</li> <li>・社会人班別講話 様々な分野の職場で活躍している方を講師として招き、その体験談を聴くことを通して、仕事のやりがいや社会の為に働くことの本質について考える。</li> <li>・地域課題についての課題研究 地域課題について興味を持ったことについて調査したり、提案をしたりして問題解決能力を高める。 調べた内容を資料にしてまとめる。</li> <li>・小論文講座 小論文とは何かを知り、基本的な技術を学ぶ。</li> </ul>
3学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題研究発表 取り組んだ資料をもとに発表する。 人の発表を聞くことで、興味関心の幅を広げる。</li> <li>・先輩に学ぶ 現在、上級学校に在学している卒業生から進路を切り拓くための努力や心構えを聞き、今後の学校生活に活かす。</li> </ul>